

間伐・間伐材利用 コンクール

本年度の間伐・間伐材利用コンクールの表彰式が、10月15日に石川県金沢市で開催された「森林整備シンポジウム2009 in 石川」において行われました。森林を健全に育て、多面的な役割を十分に発揮するためには欠かせない間伐と間伐材利用の促進。各地の取組の中から、今年も11組がその表彰の荣誉に輝きました。全国の模範となる取組をご紹介します。

森

林は地球温暖化の防止、国土の保全、木材の生産などの多面的な機能を通じて、私たちの生活と密接なつながりを有しています。

森林の様々な恩恵を享受しつつ、健全な状態で維持していくためには、木材利用を通じた森林の整備を推進していくことが大切です。

森林・林業に関係する一七団体が構成する間伐推進中央協議会では、

間伐の実施及び間伐材の利用に係る斬新かつ積極的な取組の普及を図るため、平成二二年度から「間伐・間伐材利用コンクール」を実施しています。

コンクールは、建築や土木、家具・内装などに間伐材を使用することで間伐の推進を支援する活動を対象とした「暮らしに役立つ間伐材利用」部門と、森林ボランティア団体など



間伐・間伐材利用コンクールの表彰が行われた森林整備シンポジウム2009 in 石川

における間伐推進や地域活動など、社会的貢献度の高い取組を対象とした「森林ボランティア団体等による森づくり」部門、林業事業体における間伐推進や効果的な間伐実施などの取組を対象とした「林業事業体による森づくり」部門の三部門に分かれています。本年度で第一〇回目を迎えるコンクールには、全国から九二件の応募が寄せられ、平成二二年度の受賞者として、「暮らしに



林野庁長官賞をはじめとした授賞式

役立つ間伐材利用」部門ではウッドメイクキタムラほか五件、「森林ボランティア団体等による森づくり」部門では特定非営利活動法人こびすくらぶほか二件、「林業事業体による森づくり」部門では松浦市森林組合ほか一件の計三件が選定されました。今回はその中から林野庁長官賞を受賞した二件と間伐推進中央協議会会長賞を受賞した三件をご紹介します。

平成21年度「間伐・間伐材利用コンクール」受賞者

「暮らしに役立つ間伐材利用」部門



- ◇林野庁長官賞
・ウッドメイクキタムラ（三重県北牟婁郡紀北町）



- ◇間伐推進中央協議会会長賞
・株式会社 大田花き花の生活研究所（東京都大田区）



- ◇全国木材組合連合会会長賞
・アサヒピール株式会社（東京都墨田区）



- ◇全国森林組合連合会会長賞
・中本製箸株式会社（石川県金沢市）



- ◇審査員奨励賞
・幸田町立坂崎小学校（愛知県額田郡幸田町）
・有限会社 長浜木履工場（愛媛県大洲市）

「森林ボランティア団体等による森づくり」部門



- ◇林野庁長官賞
・特定非営利活動法人 こびすくらぶ（千葉県船橋市）



- ◇間伐推進中央協議会会長賞
・ライオン株式会社（東京都墨田区）



- ◇全国林業改良普及協会会長賞
・NPO法人 根来山げんきの森倶楽部（和歌山県和歌山市）

「林業事業者による森づくり」部門



- ◇間伐推進中央協議会会長賞
・松浦市森林組合（長崎県松浦市）



- ◇全国森林組合連合会会長賞
・鍋島林業株式会社（長崎県雲仙市）

「森林整備シンポジウム2009 in 石川」

一〇月一日、二六日に石川県金沢市で「森林整備シンポジウム2009 in 石川」が開催されました。

第一日目は石川県立音楽堂を会場に、「間伐・間伐材利用コンクール」の本年度入賞者の授賞式と、林材ライターの赤堀楠雄氏による「森林国から林業国へ」と題した基調講演が行われ、また、森林整備の活動事例なども紹介されました。

第二日目は、加賀地域における県産材の加工流通拠点となっているかが森林組合那谷工場と南加賀木材協同組合、県産材を利用して造られた金沢城・河北門において現地研修会が開催されました。

第一日目のシンポジウムで紹介された活動事例では、「金融機能を通じて取り組むのとしんの森づくり」と題し、のと共栄信用金庫

CSR推進室の中里茂推進役が、赤道山における森づくり協定による活動内容や、「やまもり」と命名したのと森づくり貢献型の定期預金の概要等を説明しました。

また、石川県森林組合連合会の亀井順一郎木材販売課長は「石川県における間伐材の安定供給への取組」と題し、安定供給の実現に当たっては間伐材の利用促進を図ることが重要であるとし、素材特性に応じて販売展開した事例を紹介しました。

フォレスト・アミニティー研究所の鋸谷茂副所長は「利用間伐を推進するための路網整備の取組」と題し、林道・作業路網の整備方法や留意点を豊富な事例を盛り込みながら発表しました。

「暮らしに役立つ間伐材利用」部門

ウッドメイクキタムラ（三重県）



「見渡す限り山に囲まれた環境だけに、この豊富な地元の木を何とか有効に使用しようと色々な試行錯誤を行ってきました。製品開発も素材利用も、そして素材供給先となる速水林業さんなどと協力して二〇〇〇年にFSC（森林管理協議会）のCO

C認証を取得したことも、全部、地元の木を使うことが原点となつていきます」と語るのはウッドメイクキタムラの北村英孝社長です。北村社長は製品化への苦心談を「ヒノキといえども木ですからアテもあり、ほかの欠点もある。間伐材



ウッドメイクキタムラ
北村英孝 社長

となれば市場に出回らないような木もたくさん出てきます。ただ、そんな木でも短く切って手をかければちゃんと製品として利用できます。山に対しては素材を市価より一割高く買うようにしています。そうすれば山にも手が入るようになるし、間伐した丸太を山に放置するといった状態の解消にも役立ちます。今は枝まで使おうという意気込みで取り組んでいます」と語り、「製材した素材を人工乾燥した上で三〜四ヶ月養生しておくのも、その製品を気候風土に合わせて使うための工夫です。そういう材料で作ったものは一生使える製品となります」と製品に対する絶大な自信を表明しています。

受賞概要

ウッドメイクキタムラは、間伐材を使用したビジネスからプライベートまで使える家具を製作しており、全体的に直線を基調としたシンプルなデザインで、素材の良さをそのまま伝えることとしている。キャスター付きボックスや便利BOXの内部には「空間活用棚」を採用。これは縦横に組み込まれた溝レール付パネルと可動式プレートの組み合わせで、ボックス内部の空間を有効に使い無駄なスペースを無くす特許技術。以前から尾鷲ヒノキにこだわってきたが、より多くの人に尾鷲ヒノキの魅力を伝え、木を使うことで地域の森林が適切に管理されることを望み、2000年にFSC森林認証の加工流通認証であるCOC認証を取得。本作品の材料もFSC認証を受けた尾鷲ヒノキの間伐材を100%使用している。

「森林ボランティア団体等による森づくり」部門
NPO法人こびすくらぶ(千葉県)



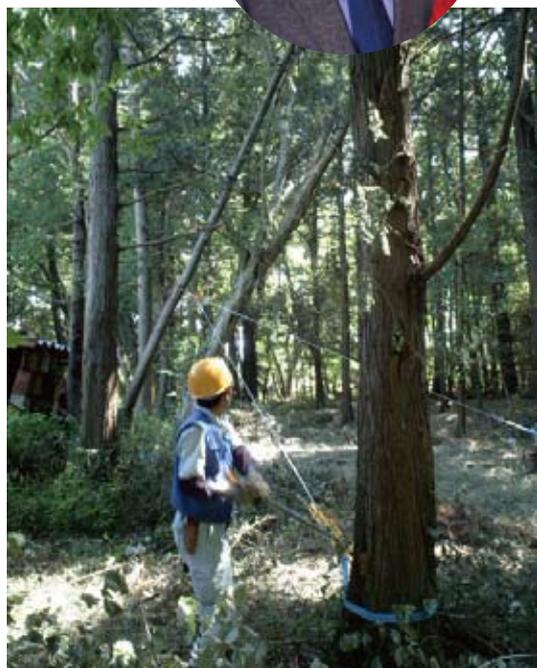
らマツ枯れでマツが消滅し、また、人が入らなくなったことで、里山林は今、危機に瀕しています。これらの山を再生させようと言う目的で結成されたのが『こびすくらぶ』です」と説明するのは中嶋守男会長です。こびすくらぶは現在、船橋市内の森林所有者四三名から森林施業の委託を受け、森林施業計画を策定して森

の整備を進めています。

「受託林については、当面一〇年で最初の整備を終える目標としていますが、三〇年、四〇年と放置されてきたところも多く、こうしたところは笹がびこり、計画通りにはいかないのが実情です。平成一七年からの取組でようやく半分程度にまでこぎつけました。受託林の整備が一巡すればその後の整備は楽になるわけで、現在の目標は一巡目の整備をまずは成し遂げることです。会員一同が結束して目標達成に向けて努力しています。」と意気込みを語っています。



NPO法人
こびすくらぶ
中嶋守男 会長



「法人名となった『こびすくらぶ』のコピス (Copice) とは切り株から出てくる萌芽のことで、これがいっぱい集まれば雑木林になる、という意味合いから命名されています。千葉県には今でも里山林が多く存在しますが、昔はアカマツなどが植栽され、地域住民などによって維持管理されてきました。しかしなが

受賞概要

特定非営利活動法人こびすくらぶは、千葉県と船橋市の共催で行われた市民講座「森林の学校」の受講生と既存の森林ボランティアの有志により平成17年2月に設立された。102haの森林について、森林所有者との受委託契約に基づく森林施業計画を樹立することで、自主的な森林管理のサポート及び代行機能を果たしている。この結果、“植えて育てるみどり”から、“伐って育てる森”への意識の転換及び“森林は地域の財産である”といった合意形成が図られ、地域の森林づくりに責任を持つ市民の育成に役立っている。また、森林所有者が森林づくりの義務を果たす仕組みづくりとして、年30千円/haの森林整備委託料を所有者理解のもと負担いただいており、平成20年度からは、絆の森整備事業等の造林補助事業も活用しながら森林整備を進めている。

間伐推進中央協議会会長賞

「暮らしに役立つ間伐材利用」部門

株式会社大田花き花の生活研究所（東京都）

国内最大の花き卸売会社である（株）大田花きが業界初のシンクタンクとして創業した企業が（株）大田花き花の生活研究所で、花きに関する研究・開発を幅広く進めています。

家庭用や事務所に花きの普及を図るためのグッズの開発や研究等もその一環で、「受賞対象となったセラミックスコーティングの人工培養土は、消臭効果や浄化性能の高い炭を屋内の植木鉢の中で使えないか、との発想から作られたものです。黒くて手が汚れてしまったのは、優れた



（株）大田花き花の生活研究所 桐生進 代表取締役

性能であつても使ってもらえないため、コーティングして粒状に加工しました。植木鉢の中に入れても綺麗で清潔感があり、炭本来の効果も活かされています」と説明するのは研究所の桐生進代表取締役です。

受賞概要

（株）大田花き花の生活研究所は、間伐材を炭素化しセラミックスコーティングした人工培養土を商品化した。シックハウスの原因といわれるホルムアルデヒドなどの室内大気汚染物質を炭の吸着力で除去し、また、ペットやタバコの臭いなどの悪臭に対する消臭効果等もあり、植物を育てながら室内の浄化を行うのが特徴。

間伐推進中央協議会会長賞

「林業事業体による森づくり」部門

松浦市森林組合（長崎県）



松浦市森林組合 中島延寿 代表理事組合長

も出来なくなってしまう。広く賛同を得ることで、高性能林業機械の導入も可能となり、結果としてコストダウンが図られ、森林所有者への利益還元も可能となる。まずは個々の森林所有者から信頼を得ることから始まります」と説明します。

「一番大事なことは、森林所有者から間伐等の作業委託をいかに受けるかということですよ」と語るのは松浦森林組合の中島延寿組合長です。「利益を還元できなければ森林所有者にとって魅力はなく賛同を得られない。そうなると集約的な森林施業



受賞概要

松浦市森林組合は、これまで、定性間伐と林内作業車による集材を行ってきたが、森林所有者へ収益を還元するには至らず、林産コストを縮減して収益性を高めることが緊急の課題であった。このため、平成19年度に創設された県の森林環境税を活用し、森林所有者の負担がない作業路の開設に取り組むとともに、高性能林業機械の導入（リース）を開始した。翌20年度からは列状間伐を採用することで、低コスト生産に向けた間伐作業に本格的に着手し、収益を還元することができた。

間伐推進中央協議会会長賞

「森林ボランティア団体等による森づくり」部門

ライオン株式会社（東京都）



『ライオン山梨の森』では社内ボランティアによる森林整備を年三回行っています」と取組状況を説明するのはライオン株式会社CSR推進部の永合一雄部長と社会責任推進チームの小竹由紀専任部長です。
同社は「社が指定するボランティア



ライオン株式会社のCSR推進部の永合一雄部長と社会責任推進チームの小竹由紀専任部長



アに参加する場合は、年間五日間までは有給休暇扱いとなるボランティア休暇が利用できます。『ライオン山梨の森』での活動に参加するボランティアもこの制度を利用しています。今年からは新入社員研修に『ライオン山梨の森』での森林整備活動を組み込みました」と取組の輪がさらに拡大していることを強調しています。

受賞概要

ライオン株式会社は、持続可能な循環型社会を実現するために、企業の果たす役割は重大であると考え、特に、水環境保全の取組を近年強化している。森林整備や間伐材の利用促進を通じて、CO2の吸収促進と「持続可能な森林経営」を活性化することを主目的に「ライオン山梨の森」を開設した。平成18年10月からは、ボランティア休暇制度を利用して社員が森林整備活動を行うとともに、森林のもつ多面的な機能を体験的に学び、環境保全の重要性を理解するためのフィールドとしても「ライオン山梨の森」を活用している。社員ボランティアは、本社、研究所、小田原・千葉両工場から参加しており、普段はあまり顔を合わすことのない社員同士の交流の場にもなっている。